

平成二十九年 度

適性検査 一一一一

(注意事項)

一 放送で指示があるまでは、開かないこと。

その他、すべて放送の指示にしたがいなさい。

二 解答らんは、この用紙の裏側に印刷されています。とりはずして使用し、
答えは、すべて解答用紙に書きなさい。解答用紙は、半分に折って使用しても
かまいません。

三 検査問題は、一ページから三ページまで印刷されています。

検査が始まって、文字などの印刷がはつきりしないところや、ページが
足りないところがあれば、静かに手をあげなさい。

四 「やめ」の合図があったら、筆記用具を置き、机の中央に解答用紙を裏返して
置きなさい。

適性検査 2－2 放送用CD台本

これから、適性検査 2－2 を始めます。外側の用紙が解答用紙です。内側に問題用紙があります。内側の問題用紙は、指示があるまで開いてはいけません。

それでは、外側の解答用紙を開き、受検番号と氏名を書きなさい。

(20秒後) 書き終わったら元通り問題用紙を挟んで閉じなさい。

(5秒後) 最初は、放送を聞いて問題に答える検査です。それでは、解答用紙を裏返して「メモらん」と書いてある面を上にしなさい。(3秒後)「メモらん」にメモを取ってもかまいません。

(5秒後) これから、^{むくはとじゅう} 椋鳩十さんが書いた「樹齢七千年の杉」という作品の一部を朗読します。この話は、筆者が屋久島を訪れ、ガイドの岩川さんの案内により、樹齢七千年の大木を見に行くところから始まります。筆者が人里からそう遠くないところに生息しているその大木と対面したときの気持ちに注意しながら聞き、問題用紙の問いに答えなさい。なお、朗読は1回だけです。それでは、朗読を始めます。

(3秒後)

朝はやくたって、樹齢七千年の杉までたどりついた。

七千年といったら、日本の歴史でいうと、神代のころにあたるであろうか。そんな時代から、生きつづけていた木なのである。

なんとまあ、すごい命だ。

七千年の命が、私の目の前に、どしんと立っているのだ。

胴まわりの大きいこと。

大人が、十人で、両手をひろげてかかえても、かかえきれないであろう。

胴まわりは、十畳の間より大きいかもしれない。

想像を絶する大木である。

その大木が、峰吹く風に、ごうと、音たてている。

七千年の老木が、大自然の神と、会話でもかわしているような音に聞こえるのであった。

木といっても、七千年という命をもつ杉は、むしろ、大自然の奥深さを象徴する不思議なる存在といった感じだ。

七千年の命が、今も、脈々として、息づいているのだ。

なんとも、とびぬけて、不思議な木だ。

人間にたとえたら、仙人の類であろうか。

いやいや、仙人とも、根本的にちがう存在である。

仙人は、俗世間から、遠くはなれた存在である。俗世界から超然とした存在である。

ところが、この七千年の命の杉は、俗世間の中に、ひたり込んで生きているのであった。俗世間から、超然として生きようなどと、もうとう考えていないようである。

七千年の老木だから、その杉の葉も、枯れがれとしているだろうと思ったら、大間違いだ。

さわったら、指の先も、青く染まるほど、その葉は、新鮮に光っているのだ。若々しいのだ。

さらに驚いたことには、七千年の老木の枝という枝には、杉の実が、びっしりと、ついているのであった。子孫を残すための実を、びっしりと、つけていたのであった。

七千年の老木といえども、ほうほうと、命の火をもやして、今を生きているのだ。現世を、力いっぱい生きているのだ。

「七千年の命が、音たてて燃えているわ。すごい」

と、私は、思わずつぶやいた。

すると岩川さんは、

「なにしろ、杉というやつは、すごい木でありますぞ。千年の杉でも、二千年の杉でも、倒れる瞬間まで、ちゃんと、杉の実をつけるんです……」というのであった。

すごいというよりも、素晴らしいと思った。

死の瞬間まで、命の火を、ほうほうと燃やす。美しい生き方だ。

こういう生き方なら、あの世に旅立つにも悔いがない。美しい旅立ちだ。

(椋鳩十『命ということ心ということ』「樹齢七千年の杉」より)

以上で放送を終わります。それでは、問題用紙を開き、全ての問題に答えなさい。

平成二十九年度

適性検査 二―二

問題用紙

放送で聞いた内容から、次の(1)、(2)の問いに答えなさい。

(1) 筆者が^{たいぼく}大木と対面したときに感じた二種類の音を、次のようにまとめたとき、①、②にあてはまる言葉を書きなさい。

○みね(山頂) ^{さんちよう} をふく風に、大木がたてている「ごう」という音が(	①	(音を聞こえた。
---	---	----------

○実際に聞こえているわけではないが、大木がほうほうと)	②	(音をたてているように思えた。
-----------------------------	---	-----------------

(2) 筆者は、「仙人^{せんじん}(山中に住み、不老不死であるといわれている想像上の人)」と比べて、大木をどのような存在^{そんざい}ととらえていたか、「同じ点」と「ちがう点」にふれながら書きなさい。

二 次の文章は、筆者の貫戸^{かんと}朋子^{ともこ}さんが、天災や戦争などの状況^{じようきよう}下、医療^{いりよう}えん助活動等を行う「国境なき医師団」の医師として、赤道近くのスリランカという国のマドゥーにある、戦火をさけて住居をはなれた人たちが集団で生活している場所(キャンプ)で活動したときの体験談の一部です。これを読み、あとの(1)、(2)の問いに答えなさい。

(貫戸朋子『マドウの地で』より)

- | | | | |
|----|---------|----|---|
| ※1 | 夜間外出禁止令 | …… | 人々を守るために、出歩くと危険な夜間の一定の時間帯をあらかじめ通知する、その指令。 |
| ※2 | 紛争地 | …… | 争いが起きている場所。 |
| ※3 | 敬意 | …… | りっぱだと思いう気持ち。 |
| ※4 | 過酷 | …… | 厳しすぎる様子。 |
| ※5 | 屈託なさ | …… | 何かを気にして心配するようなことが全然ない様子。 |

(1) 文章中に、心の^A中からしみじみと喜びが^A込み上げてきました とあるが、それはなぜか、その理由を書きなさい。

(2) 文章中に、考えは^B変わりました とあるが、何が、どのように変わったのか、その理由についてもふれながら書きなさい。

三 放送による問題一の棕鳩十さんはくはとじゅうの文章から聞き取ったことと、問題二の貫戸朋子さんかんともこの文章から読み取ったことをふまえて、次の(1)～(3)の問いに答えなさい。

(1) 二人の筆者が伝えようとしていることの中で、共通していることを次のようにまとめたとき、①に合う内容を書きなさい。

樹木も人も生命あるものは、

①

)

(2) (1)で答えた内容について、貫戸さんは、「敬意をはらわずにはいられない。」と感じているが、棕さんはどのように感じていたか、書きなさい。

(3) (1)、(2)で答えたことに関連して、あなたはこれまでにどのような経験(見たり聞いたりしたことをふくむ)をし、その経験を通してどのようなことを感じましたか。また、それを今後、社会のためにどのように生かしていきますか。次の(注意事項)にしたがって、三百字以上、三百四十字以内で書きなさい。

(注意事項)

ア ます目の中には、題名、氏名は書かずに本文から書き始めること。

イ 文章全体を三段落さんらくの構成とし、一段落目には、あなたの経験について、二段落目には、その経験から感じたことについて、三段落目には、それを今後、社会のためにどのように生かしていくかについて具体的に書くこと。

ウ 原稿用紙の適切な使い方にしたがって書くこと。

エ 文字やかなづかいなどを正しくていねいに書き、漢字を適切に使うこと。

【メテラン】

平成二十九年 度 適性検査 二 一 二 解 答 用 紙

答へば、すべてこの解答用紙に書き、解答用紙だけ提出しなさい。

受 検 番 号	
---------	--

氏 名	
-----	--

※

※らんには何も書かないこと。

一

(1)	①
(2)	②

(2)	
-----	--

二

(1)	
-----	--

(2)	
-----	--

--

[illegible][illegible]

(d)
二
M4

問題 番号	一	二	三	合 計
	(1) ① 大自然の神と会話でもかかわっているような ② 命の火を燃やす	(1) どちらとも長命という共通点はあるものの、せん人はそく世間からはなれたそんなだが、大木はそく世間の中に入りこんで人と共せんしてきたそんな。 (2) むすめをなくしたつらい状況の中でも、今できることを精いっぱい行おうと、医師への信らいを失わず、残された子どもの命を今度こそ守ろうとしている父親のすがたを目にしたから。	(1) ぎりぎりの状況よう下で必死に生きぬこうとする人々とともに生きることにより、「ボランテア」に対する考えが、人に与えるものではなく、多くのことを教えてもらえるものであり、生きる意味を再確にんすることや、人間のすばらしさを味わうことなどでもできるものであるといふにん識が変わった。 (2) 今を精いっぱい生きている。 (3) すばらしく、また、美しい生き方の木であると感じていた。	30
	(1) 5 (2) 5 10	(1) 15 (2) 15 10 10	(1) 10 (2) 10 30	20 30 50
	配点及び注意事項 同趣旨ならば点を与える。また、部分点を与える場合がある。 同趣旨ならば点を与える。また、部分点を与える場合がある。 同趣旨ならば点を与える。また、部分点を与える場合がある。			
	計			100